

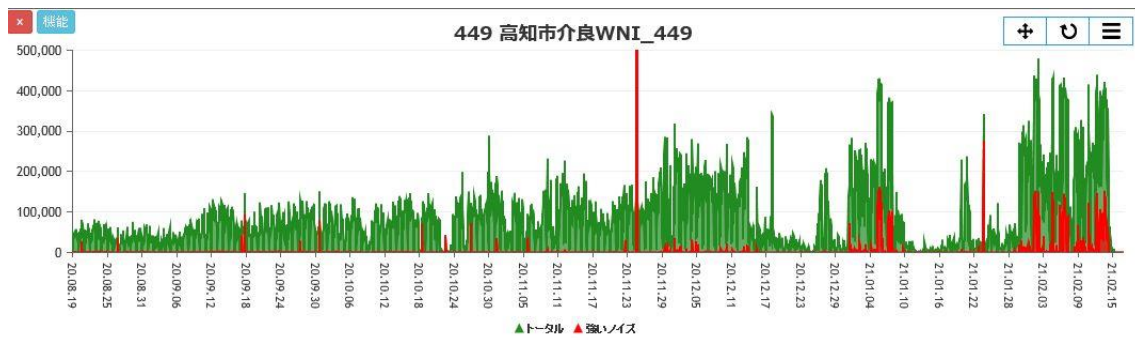
210215 関西の状況について

一昨日の2月13日深夜に福島県沖 M7.1 が発生して、ちょうど同じタイミングで長く懸案であった和歌山-A のデータが収束したため、震源までの距離はかなり離れていますが一応の関連性を検討しました。

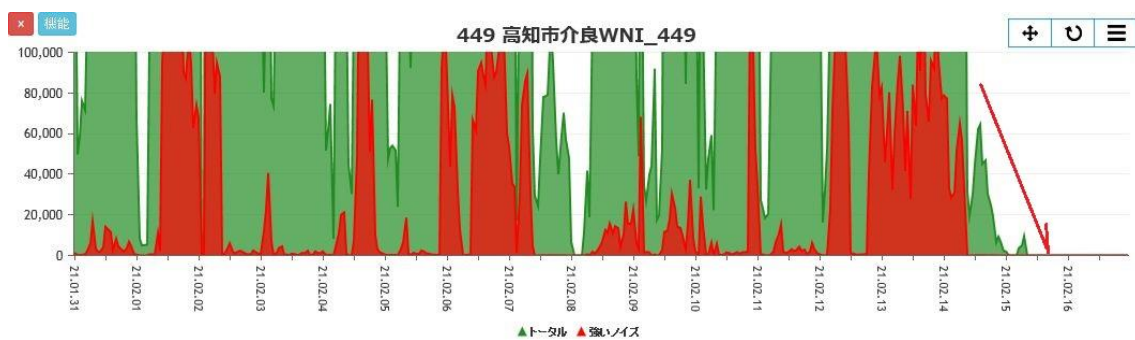
他方で本日2月15日に 同じく長期の懸案であった高知市介良のデータが急に減衰しています。また同じ高知県の黒潮町に MAX50 万の塊状のデータが出ていますが2段階の減衰をしてきています。そのほかに 関西には大型データがいくつかあり、和歌山-A のほか伊勢 D484、印南、神戸灘区のかたまり状のデータなども急な減衰をしています。さらに広島 のデータも大きな山の形が減衰してきており、関西の多くのデータが一斉に減衰してきているように見え、また大分県府のかたまり状のデータの結果もまだ出ていません。

大型データの中心はやはり高知市介良のデータになりますが伊勢から和歌山、神戸、広島と広範囲のデータであることから関西、四国方面は警戒が必要と考えます。

高知市介良のデータ



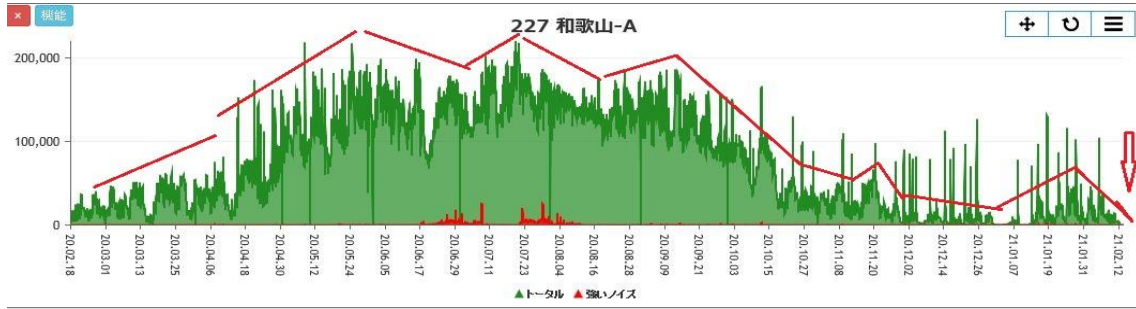
高知市介良 15日間データ



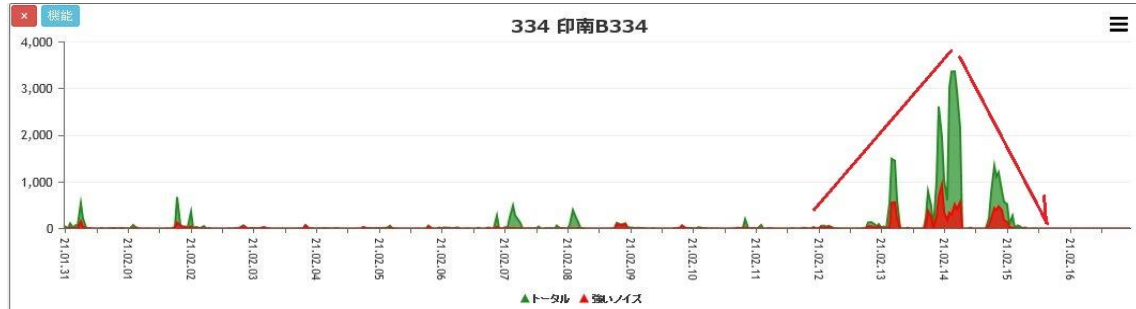
高知 黒潮町



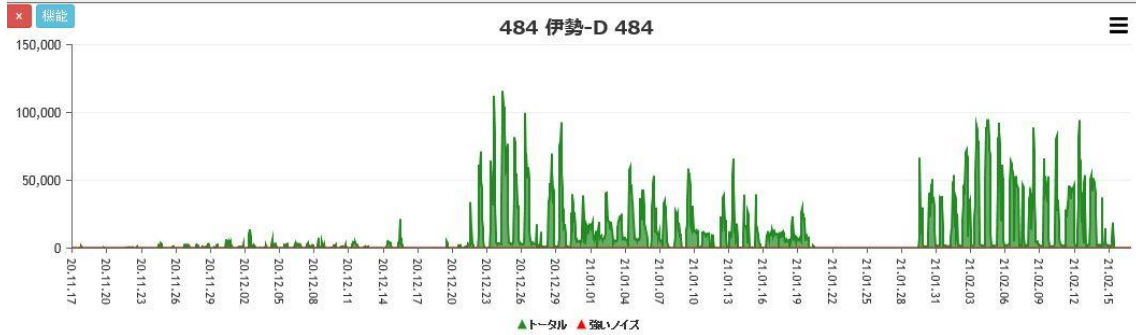
和歌山-A のデータ



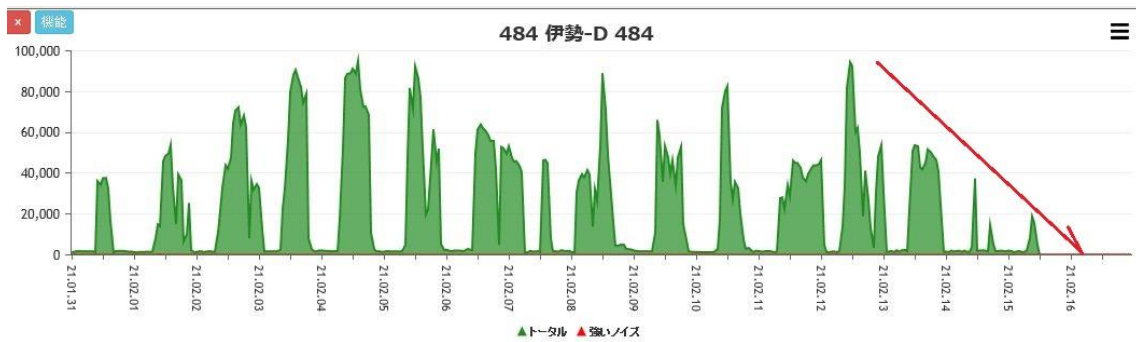
印南



伊勢 D484



伊勢 D484 15日データ



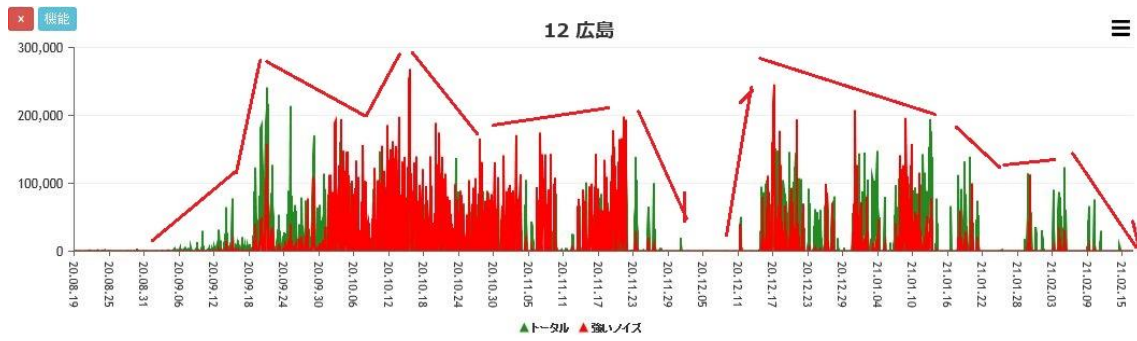
神戸 灘区



神戸 灘区 15 日間データ



広島



大分県 180 日データ

